

2014年InterRidgeJ連絡会@JpGU

参加者：沖野・佐藤暢、野木、佐藤、川口、浅田、土岐、富士原、砂村、浦辺、島

InterRidgeの意義・メリットの整理：

- ・メリット：国際ネットワークの構築、コミュニティーを大きくするための機会の提供（シンポジウム、学生受け入れ、航海参加など）、**Funding**や航海時申請の国際活動実績

- ・基本的な考え：IRの精神は、科学目的での海嶺研究の促進である。**mining**の影響などをやるなら、科学の立場からきちんとして行うことが必要だが、現在のIRからは、メンバー不足。IRの精神からは、企業からのお金を入れることには反対で、それを行うくらいなら解散して、**mining**部分をISAやSCORの分科会として作ることを推奨したい。

- ・デメリット：供託金の額や組織維持にかかるコストや労力が、メリットに比べて遙かに大きい。組織を維持することが目的化してはならないし、現状ではお金をばらまくことが目的化しているように感じられる。

日本からの提案

- ・繰越金を使用しての出来る限り安価な運営

→InterRidge news印刷物の廃止（pdfに置き換え）、学生奨学金・航海参加費等の廃止もしくはISA分のみへの縮小、ワークショップ開催のAGU/EGUへの統合（含むStCom会議）。

→もしこの案を受け入れてもらえるなら、次期オフィスは日本で行ってもよい。

以下参考：ただし、各国とも同様であると思うが、供託金を支払うこと自体は不可能ではない（浦辺さんから、資源探査のSIPのお金を支払いに使う提案あり）